

安心と信頼、良質なてんかん・神経の包括医療

静岡てんかん・神経医療センター情報誌

平成29年 春 第50号

看護師さんを
募集しています

あかり

A K A R I

静岡市役所「葵の塔」ライトアップ	1
パープル・デー静岡 展示会と相談会	2
パープルデー院内イベントに参加して	3
パープル・デー・フラッグ	3
平成28年度静岡市中心のバリアフリーイベントに参加して	4
てんかん発作を治すための脳波検査	4
電子カルデが導入されましたので、受付方法などが変わりました！	6
てんかんホットライン	6
てんかん外来再診の診療体制／セミナーと研修	7
はじめて当院を受診される方へ／当院へのアクセス	8
医療連携室のご案内	8

静岡市役所「葵の塔」 ライトアップ

3月21日(火)午後5時45分から、静岡市役所鏡池を舞台にして、パープル・デーのライトアップセレモニーを行いました。

昨年から静岡市のご厚意により市役所葵の塔をライトアップしていますが、より多くの皆様にてんかんとパープル・デーを知ってもらうために、今年から新たに^{ひつじきるやぐら}坤櫓のライトアップと点灯式典・ライトアップセレモニーを企画しました。

田辺静岡市長、榎戸静岡けやきライオンズクラブ会長をお迎えして、井上院長とともに点灯ボタンを押してもらいました。願いも叶わず、雨の中での式典となりましたが、テレビ局が取材にきていただき、



夜のローカルニュースで放映されました。

式典を盛り上げるべく、静岡農業高等学校吹奏楽部の皆さんがスタンバイしていました。しかし、雨がやまず演奏はかないませんでした。部員26人は式典に参加いただき、大きな声で応援をしていただきました。

ライトが水銀灯のため、スイッチオンからしばらくは薄い紫でしたが、時間がたつにつれて、夜空にくっきり紫の葵の塔が浮かび上がりました。

(企画課長 遠山 憲之)



パープル・デー静岡 展示会と相談会

昨年に引き続き、てんかん啓発事業として、3月25日(土)、26日(日)にSBSラジオパークに出展して、展示会と相談会を開催しました。

あいにく寒の戻りが厳しく寒い2日間でしたが、人の出は多く、立ち寄っていただいた皆さんにてんかんとパープル・デーのお話をさせていただきました。

多くの方は、てんかんという疾患が100人に1人の有病率であることと、また、パープル・デーを提唱したのがカナダの少女であることに驚きを示されました。パープル・デー3月26日は紫色のものを身に着ける活動をしていることを説明すると、すぐに賛同いただき、お配りした缶バッチを付けていただけました。

地元のアイドルやアナウンサーさんが立ち寄っていただき、当院の紫の法被をまとい、記念撮影に応じていただきました。

26日は、パープル・デーを後



援していただいている静岡けやきライオンズクラブから、ラベンダーの苗を200鉢の提供をいただき、無償配布を行い好評でした。

多くの市民にてんかんをもっと知ってもらいたい機会となりました。これからも継続して啓発活動を行いたいと思います。

(企画課長 遠山 憲之)



看護師さんを募集しています!

①常勤職員：病棟勤務 夜勤有り

②非常勤職員（外来、通所事業、病棟）

経験の少ない方、育児等でブランクのある方でも心配はご無用です。「じっくり患者様と関わりたい」「ゆとりのある看護をしたい」とお考えの方、ぜひ当院で働いてみませんか？相談、見学等随時お受けしております。お気軽に看護部長室までご連絡ください。

TEL ● 054-245-5446

E-mail ● kango-bu@shizuokamind.org

パープルデー院内イベントに参加して

3月22日(水)にパープルデー院内イベントが行われました。昨年から体育館でイベントを行う大がかりな催しとなって今年で2回目ですが、わたしも昨年から実行委員として参加させていただきました。静岡東高校の皆さんの出演も昨年からで、当初から快く出演を受けてくださいました。

昨年は学校の制服での参加でしたが、今年はたまたま他のイベント用に作成したTシャツが紫色であったため当日の衣装として着てくれたそうです。(もしかするとわざわざ作ってくれたのかもしれませんが・・・)

私も30年ほど前には吹奏楽部で金管楽器を3種類演奏したこともあり、当日は懐かしさとともに音楽の楽しさを思い出していました。狭い空間なので、患者さんが音量に戸惑っていたこともあるようですが、手拍子したり、リズムに合わせて体を動かしたりと好評だったかな、と思っています。

また、生徒さんや、学校の先生、生徒さん

の家族が見に来てくれたことで「病気の啓発」と「病院の認知」にも繋がったと思います。

残念なことに4月で転勤となってしまいますが、他の病院でもこのような企画があればどんどん参加してそれぞれの病院の特色をPRしていきたいと思っています。

また、ご協力いただいた職員の皆さん、出演してくださった県立静岡東高校の皆さんに感謝いたします。ありがとうございました。

これからもずっと続けていってください。

(経営企画係長 能田 泰守)



パープル・デー・フラッグ

ドラムロールが会場に鳴り響き司会者の合図と共に開いたのは、沢山の手形の花が咲いた大きな木が描かれた旗“パープル・デー・フラッグ”です。

パープル・デーのイベントを病院で行うようになって4年が経ちました。最初は、病棟を紫に飾ることから始まり、病院全体を使ったシールラリーを行ったり、みんなの似顔絵やコメントを載せた1枚の絵を作ったりと、パープル・デーの趣旨を生かせるようなイベントとは何だろうと考えながら行ってきました。そして今年は、パープル・デー

のイメージを何か形にできないだろうか

考え、フラッグを作る事にしました。

病気のある人もない人もみんなが一緒になって大きな花を咲かせたい、そのような思いから当院に入院している人や通ってきている人たちに参加してもらいました。病院にいる全ての人とはいきませんでしたが、下は1歳未満のお子さんから、上は70代を

超すようなお年の方まで参加してください、手形を一つ一つ押していただきました。手形を押すことが難しい人は、足形で参加をしてくれました。

こうしてできたパープル・デー・フラッグを、3月22日のイベントで皆さんにお披露目させていただきました。

私たちは、このフラッグをパープル・デーのシンボルとし、これからもパープル・デーの意味を皆さんにお伝えしていける様な活動を続けていきたいと思っています。

来年もパープル・デーのイベントが開催されると思います。会場にあるフラッグを、是非探しに来てみてください。

(療育指導室 藤森 潮美)



平成28年度静岡市中心の バリアフリーイベントに参加して

管理課長 望月 高久

平成29年3月18日(土)に「平成29年度静岡市バリアフリーイベント」が葵スクウェア・青葉緑地で開催され当センターもブースを出展しました。

この「静岡市中心のバリアフリーイベント」は障害者基本法第9条に基づき、市民が障がいのある人についての理解や認識を深めるとともに、障がいのある人があらゆる分野の活動に積極的に参加することができるように促進を図ることを目的とした活動の一環として毎年実施されています。

ブースでは障がい何でも相談、弁護士相談、福祉用具リハビリ用具紹介・相談、福祉機器展示、マッサージ体験、授産製品製作体験、授産製品販売、障害者スポーツ体験が行われました。

当センターは「てんかん知ろう」というテーマで市民の皆さまに「てんかん」という病気を知ってもら



てんかん発作を治すための脳波検査

臨床検査科 佐倉 裕二

てんかん発作というのは脳の神経細胞が過剰に活動することによって起こります。脳波はその過剰な活動を記録するための検査であるため、てんかんの診療には欠かせない検査であります。当院で行っている脳波検査は、中央脳波室で行われる『ルーチン脳波記録』と病棟脳波室で行われる『長時間脳波記録』やてんかん外科の場合に行われる『頭蓋内脳波記録』があります。当院では、いずれの検査でもビデオ映像を同時に記録しているので、検査中に発作があった場合には診断や治療に大変有用となります。脳波記録で診断が見直されることで、【より適切な抗てんかん薬に変更することで発作が抑制される】・【外科的治療が可能であることが判明して手術で発作が抑制される】などが期待されます。

『ルーチン脳波記録』は、てんかん性放電の確認・意識障害の判定・脳症の診断などの目的で行われます。通常は60分程度の記録であり、決められた時間内に異常所見を記録できるように、光刺激・過呼吸賦活・睡眠賦活を行っています。これらの賦活はてんかん発作を

誘発してしまう可能性もあるため、細心の注意を払って行っています。当院の中央脳波室には7台の脳波計があり、6名の脳波室専属の検査技師が外来・入院を合わせて年間 約6,500件と膨大な数の脳波検査をしています。脳波室専属であるため、記録中に発作が起こった場合でもすぐに対応する事が可能となっております。

『長時間脳波記録』は、入院して長時間の脳波を記録することで発作を記録する事を目的に行われます。発作が記録する事で難治性てんかん患者における、てんかんの診断・てんかんの発作型の確認・非てんかん発作の鑑別・治療効果の確認・てんかん外科のためのてんかん原性焦点の確定などを行います。この検査に用いる固定式の脳波計は、A3病棟に6台、A4病棟に3台、A5病棟に3台、A6病棟に2台の合計14台あります。さらに、病室などの様々な場所でも検査をすることができる移動式の脳波計も5台あり、合計19台の脳波計を使って、6名の病棟脳波専属の検査技師が、休日にも検査が行える体制で、年間 約8,500件と非常に多くの検査

をしています。この記録は発作を記録するために行いますが、発作時に事故が起きないように常に看護師が細心の注意を払い、患者さんからのナースコールに対応するだけでなく、心電図による異常の検出や脳波記録そのものからの異常の検出なども用いて安全に発作を記



うためにクイズ形式での啓発活動や個別相談を行いました。

また3月26日のパープル・デーに合わせ、ひつじさるやぐら静岡市庁舎本館や坤櫓を紫色にライトアップを行うことや点灯式のPRも行いました。

ステージではブースの紹介や障がいのある人によるダンス、体操、楽器演奏、小学生によるバンド演奏、チャリーディングなどが催されました。

ブース紹介では当センターの久保田統括診療部長が「てんかん」という病気、当センターの役割、パー



プル・デー活動などの紹介を行いました。

来場された市民の方には「てんかん」という病気がある程度理解していただくことができたかとは思いますが、「てんかん」という病気に誤解や偏見を持っている方もまだまだいらっしゃるということが良くわかりました。

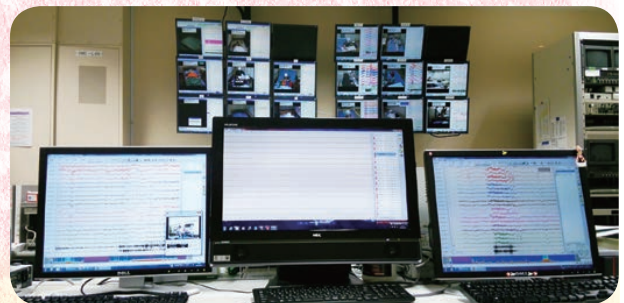
今後もこの様な機会を活用し、「てんかん」という病気を理解していただく啓発活動を続けて行かなければならないと強く感じました。

録できるように配慮しております。発作時には意識が曇っていないか、手足は固くなっていないか、失語や麻痺などはないか、など様々なことを確認しなければなりません。当院では検査技師、看護師、医師が可能な限りこれらのことを確認するような対応を心がけております。また、A4病棟にある脳波計の内の1台のビデオカメラにはこの検査のためだけに発注して特別に作成した追尾機能がついており、多動などのよく動きまわる患者さんでも検査を行うことが出来ます。なお、経験をつんだ脳波専属の技師が対応するため、動きまわる患者さんに脳波電極をつけるノウハウなども蓄積しております。

頭蓋内脳波記録は、難治性部分てんかんの患者さんにおいて、頭皮上脳波や他の非侵襲的検査でてんかん原性焦点が決定できなかった場合に行います。手術により頭蓋内や硬膜下など、脳に直接電極を留置して発作時の脳波を記録することで、てんかん原性焦点をより正確に同定することが可能となります。さらに留置された電極を電気刺激することで、運動野や言語野などの大脳機能として重要な部分を同定することが可能となり、手術後に麻痺や失語などの合併症を起こさないようにすること可能となります。当院ではA3病棟に頭蓋内脳波記録を行える脳波計が2台設置されており、年間 約10～20件の頭蓋内脳波検査を行っております。この検査は電極の埋め込み手術の後、1～2週間の脳波記録期間

があり、その後ももう一度電極を抜去しててんかん原性焦点を切除する手術を行うため、どうしても2回の手術が必要となります。この2回の手術の間は、患者さんにも有意義な記録が得られるように頑張っていたかなければなりません。手術により発作が抑制されることを期待し、我々医療チームも最大限の努力をしております。

また日中のねむけ等で困られている、睡眠時無呼吸症候群や過眠症(ナルコレプシーなど)の方を診療の対象としたねむけ外来もあります。これらの疾患の鑑別は、まず外来で簡易型の睡眠時無呼吸検査を行っております。この簡易型で異常が疑われた場合には、1泊の入院をしていただき、通常の脳波に眼球運動モニター・呼吸モニター・酸素飽和度モニター・心電図、筋電図などのセンサーを加えた終夜睡眠ポリグラフィーも年間 約100件 行っております。この検査で睡眠時無呼吸症候群や過眠症と診断がつけることができますと、その後の治療で、ねむけを解消することができるようになる可能性があります。



電子カルテが導入されましたので、受付方法などが変わりました！

算定・病歴係長 井上 智裕

電子カルテシステム更新に伴って、外来診療方法が変更になります。まず、自動再来受付機が新しくなりました。以前からある受付票と、新たに診療案内カードが発行されます。診療案内カードには、本日の診察の手順が書かれています。診療案内カードを見て、各検査室やスタッフステーションへ移動していただく運びとなります。

医事課受付した後、採血のある方は外来スタッフステーションへ、検査のある(採血なし)の方は各検査室(放射線受付など)へ、リハビリのある方は、リハビリ前の診察が必要になりますので待合室へ、診察のみの方は待合室でお待ち下さい。待合室では、受付票にある受付番号又はお名前でお呼び致します。

次に、保険証の確認です。以前は会計時に保険証の確認を行っていましたが、自動再来受付機で受付した後に保険証の確認を行います。

外来診療方法が変更になってご不便をおかけしますが、ご理解の程よろしくお願いします。



てんかん ホットライン

平成22年東日本大震災が起きたことをきっかけに、震災支援のための「てんかん災害ホットライン」を当院に設置しました。

現在は震災に関係なくてんかんに関する相談窓口として「てんかんホットライン」と改名し、電話とメールで対応させていただいております。

てんかんは100人に1人、あらゆる年齢で発病します。

てんかんホットラインでは、てんかんのあるご本人やご家族、周囲の皆様及び医療機関の方まで、てんかんの診療や支援に関するご相談を受け付けています。

例えば、

- ・検査や治療などの一般的な解説
- ・発作時の対応方法について
- ・てんかんに関する社会福祉制度について

など

てんかんについてお困りのことがありましたら、1人で悩まずに、まずご相談ください。



外 来 再 診 の 診 療 体 制

てんかん科

午前の診療時間は8:30~12:00 午後の診療時間は13:00~16:30

	月	火	水	木	金
第1診察室		山 崎	中 岡	山 崎	白 井直
第2診察室	久保田英			久保田英	
第3診察室	今 井		井 上		近 藤
第4診察室		鳥 取	日 吉		日 吉
第5診察室	池 田仁	池 田浩	池 田浩	寺 田清	寺 田清
第6診察室	芳 村			芳 村	松 平
第7診察室		荒 木			山 口
第8診察室		西 田	高 橋		
第9診察室	重 松			大 谷	大 谷

神 経 内 科

	月	火	水	木	金
第10診察室	午前				
	寺田達				
	午後				
	小尾	小尾			小尾
第11診察室	杉浦	杉浦	寺田達		馬場國 尾内(第4)

特 殊 外 来

転倒予防外来	随時	小尾
認知症疾患医療センター	月・水	寺田達・小尾
遺伝相談	随時	高橋、小尾
禁煙外来	随時	池田仁
ねむけ外来	月	寺田清
包括的てんかん外科初診外来	火	寺田清

再来診療は予約制です。予約が出来ない場合は午前中にお越しください。

セミナーと研修

当院ではさまざまな研修活動を行っています。セミナーのプログラムなど当院ホームページ「セミナーと研修」で紹介しています。

てんかんに関する市民公開講座
「てんかんと上手なつき合い方」

主 催：静岡てんかん・神経医療センター
 対 象 者：てんかん患者やその家族、地域住民など
 開 催 日：平成29年1月15日(日曜日)
 ながの木会館(磐田市)
 参加人数：28名と個別相談7件

静岡県てんかん地域診療連携体制整備事業として、初めての市民公開講座の開催でした。
 広報活動不足などもあり少人数のご参加でしたが、遠方の方の参加もあり熱心に聴講されていました。

てんかんの講演と個別相談の会
「てんかんを知ろう」

共 催：静岡てんかん・神経医療センター
 日本てんかん協会静岡県支部
 対 象 者：てんかん患者やその家族、地域住民など
 開 催 日：平成29年3月12日(日)
 プラサヴェルデ(沼津市)
 参加人数：64名と個別相談10件

28年度は、静岡県てんかん地域診療連携体制整備事業として今回を含め3回の市民公開講座を開催しました。
 29年度も静岡県西部、中部、東部地域で各1回の市民公開講座の開催を予定しておりますので、是非ご参加下さい。

てんかんの講演と個別相談の会
「てんかんを知ろう」

共 催：静岡てんかん・神経医療センター
 日本てんかん協会静岡県支部
 対 象 者：てんかん患者やその家族、地域住民など
 開 催 日：平成29年2月26日(日)
 清水テルサ(静岡市清水区)
 参加人数：56名と個別相談8件

前回(磐田市)の市民公開講座の2倍の参加者でした。

てんかんに関する医師
・看護師等研修会

主 催：静岡てんかん・神経医療センター
 対 象 者：医師や看護師・教育職等の専門職
 開 催 日：平成29年3月11日(土)
 プラサヴェルデ(沼津市)
 参加人数：50名

静岡県てんかん地域診療連携体制整備事業として、静岡県東部地域で初めての研修会でした。29年度も引き続き静岡県西部、中部、東部地域で各1回の研修会を予定しておりますので、是非ご参加下さい。

はじめて当院を受診される方へ

◆診察は予約制になっています◆

1 受診のための手続きは…

予約制は、ご本人・ご家族から当院医療連携室(054-246-4580)へ、あるいは主治医の先生から当院医療連携室へ申し込んでください。その際、ご本人の氏名・性別・生年月日・住所・電話・保護者氏名をお尋ねいたします。電話をいただきますと、その場で受診日を決め、折り返し当院からかわいい書類をお送りいたします。

2 セカンドオピニオンについて

セカンドオピニオンもお引き受けいたします。

3 紹介状について

現在すでに病院へかかっておられる方は、主治医の紹介状があることが望ましいですが、なくても結構です。紹介状がない場合は別途費用(2,700円)がかかりますので、ご了解ください。病院からの資料もあれば望ましいですが、なくても結構です。

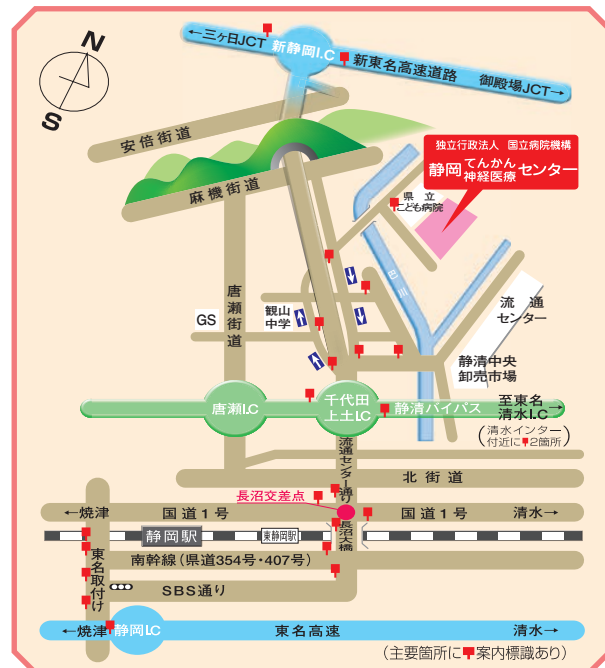
4 緊急を要する時は…

受診日は病状に応じてできるだけ対応いたしますので、緊急を要する時はその旨をご連絡ください。

当院へのアクセス

access

バスを ご利用の場合	● JR静岡駅前、北口バスターミナル5番線より静岡鉄道バスにて、こども病院線「67 こども病院・神経医療センター」行に乗車、終点の「静岡神経医療センター」で下車。全所要時間は約30分。片道料金は大人360円、小児180円。
	● JR静岡駅前(北口)より乗車。所要時間は約20分。料金は2,500円程度。
東京 方面から	● 東名高速清水インターより、静清バイパスを静岡方面に向かい、千代田・上土出口から流通センター通りを北へ数分。所要約20分。
	● 御殿場JCTで新東名高速道路へ乗換。新静岡ICより、案内板に従い直進。所要時間約7分。
お車の場合	● 東名高速静岡インターより、国道1号線を清水方面に向かい、長沼交差点を左折、流通センター通りを北へ数分。所要約30分。
	● 新東名高速道路・新静岡ICより、案内板に従い直進。所要時間約7分。
名古屋 方面から	



医療連携室のご案内

医療機関間のコミュニケーションを円滑に行なうために、医療連携室(予約センター)を設置しています。ご利用ください。(平日)

TEL ■ 054-246-4580(初診)

054-246-1065(再診)

FAX ■ 054-246-4607

予約センターの受付時間

● 9:00 ~ 12:30 ● 13:30 ~ 17:00

E-mail ■ renkei@shizuokamind.org

当院では、脳波、筋電図、誘発電位、脳磁図、終夜ポリグラフ、CT、MRI、SPECTなどの検査が可能です。共同利用も可能です。上記、医療連携室にお問い合わせください。

広報誌編集委員会

編集人■

寺田 清人 佐藤 美喜子 坪井 千浩

矢嶋 隆宏 佐倉 裕二 松田雄一朗

中村 成美 高橋 輝 鈴木 健之

大山 敏生

発行■平成29年4月28日

国立病院機構

静岡てんかん・神経医療センター

〒420-8688 静岡市葵区漆山 886

TEL ■ 054-245-5446

FAX ■ 054-247-9781

URL ■ <http://www.shizuokamind.org>

E-mail ■ shizuoka@shizuokamind.org

てんかん情報センターのご案内

てんかんに関するさまざまな情報を集積したセンターが外来棟1階にあります。どうぞご利用ください。次の活動を行っています。

- ① てんかんに関する書籍・雑誌・ビデオなどの閲覧・貸し出し(自己学習)
- ② ホームページによる情報提供 <http://epilepsy-info.jp/>
- ③ てんかん協会との連携
- ④ 医療などの相談(予定)